西三谷の家

敷地は和歌山県の紀の川の北岸にあり、ゆるやかな河岸段丘の斜面には、水田が広がっています。ゆるやかに広がる棚田のような水田風景は、この地域独特の風景です。
この地に住宅を設計するにあたり、『その場所に住む』という戦略的な事柄を考えることからはじめました。周辺の風景に納まず、この地域の自然の恵みを十分に取り入れ、自然の脅威から身を守ります。軒は太陽の光を季節によってコントロールし、夏の強い日差しを遮り、冬の暖かな光を室内に取り込みます。南北の大きな開口からは、心地よい風が建物内を通過していきます。南西から来る台風の脅威から家族を守るため、建物の南側は屋高を高くし、軒高を低く抑えています。西面は台風の風を防ぐと共に、強い西日を遮ります。
外壁仕上材として、杉の胴縁材（本来下地材）を仕上げ材として使用しています。
鉄骨・コンクリートという無機質素材と対比的に使用することで、紀州材の良さ・良き風合いを、より強く引き出します。杉板は、年月を経て色あせていくことで、古き良き日本の家屋がそうであるように、しっかりと日本の風景に馴染んでいくと考えています。外壁材は杉の胴縁材を無塗装のまま使用しています。強い耐久性を持つ紀州材だからこそ、また古びていく風合いが良いからこそ、あえて塗装をせずに使用しています。また、本来下地材である胴縁材を、加工することなくそのまま使用しています。簡単にかつ安価に手に入る材料を使用することで、長期にわたるメンテナンスを容易にしています。和歌山に建つ建物であるからこそ、常に良質な紀州材が、当たりまえに手に入り、当たり前に使っていけるようにする事が、地域に根付いた紀州材の利用の方法の一つだと考えています。

hana class

【　ホームページ掲載用ポスターデータ　】

※ここに掲載されている全ての内容の無断転載、画像や文章等の無断複製・印刷・転用を禁じます。